

かわら版

人生二毛作

公益財団法人
長野県長寿社会開発センター



〒380-0928
長野市若里七丁目1番7号
長野県社会福祉総合センター5F
TEL 026-226-3741
FAX 026-226-8327
info@nicesenior.or.jp
http://www.nicesenior.or.jp

「桜茶いかがですか」と声掛けをしながら、桜茶を振る舞う“縁側人”は「辰野ボランティア・市民活動ネットワーク運営委員会」の運営委員さん。みなさん仕事を退職されて地域のために活躍されているシニアの方々です。縁側のまわりには地元の方が育てた野菜や手作りの手芸品がところせましと並べられ、縁側ににぎわいを



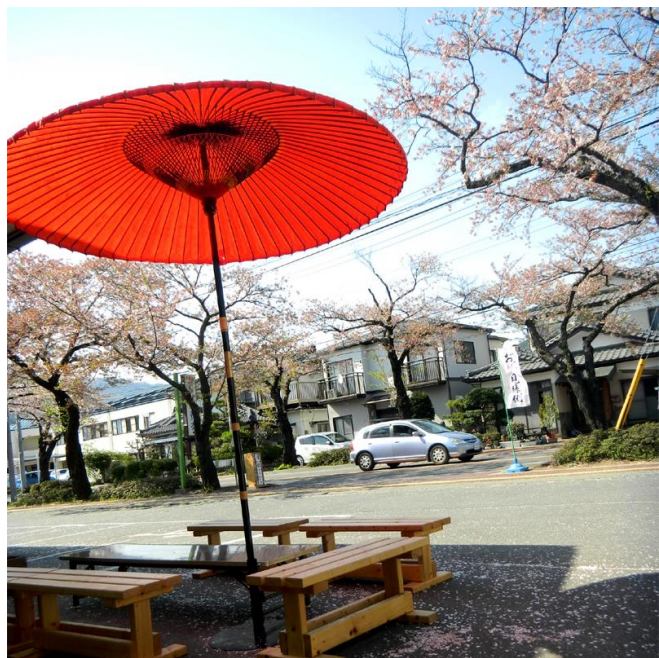
添えていました。先人が植え、育て、守ってきた桜が、いっそう町の人々が地域へかかわるきっかけをつくっています。

里山の緑が日一日と濃くなる季節を迎えました。今月はお話を伺った方々から、シニア世代に関する取組をご紹介します。

地域資源を生かし、シニアの活動の場づくり

まちづくり

辰野町ボランティアセンター



城前の桜の時期の2週間、辰野町社協ボランティアセンターの前では、野点傘の下で“お花見縁側”が開かれていました。通称“城前線”を通る人々に「やすんでいきませんか」

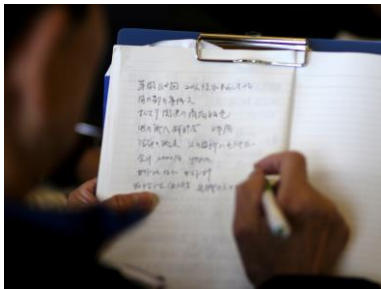
社会参加のきっかけづくり **社会参加** シニア大学のプログラム



当センターが運営するシニア大学では、“誰もがその人らしく生き抜く長寿社会の実現”を目指して、人づくりや意識づくり、仲間づくりや健康づくりをテーマに講座を企画しています。さらに現在は社会参加活動の科目を積極的に取り入れ、地域の課題を主体的に捉え自らの特技や持ち味を生かしながら解決の道を探る場としています。

その一例として、今年度の長野学部の2学年のプログラムでは、地域の実践例を学ぶためさまざまなボランティアグループにご協力いただきました。千曲市で棚田の観光案内ボランティアをする「楽知会」、長野市の認知症の家族を支援する「オレンジカフェ」、学校と地域の連携を図り子どもの育ちを応援する「学校支援コーデ

ィネーター」、地域に伝わる昔話を紙芝居にしてさまざまな年代に読み聞かせる「フクロウおばさんの紙芝居」、須坂市の高齢者の外出をお手伝いする「あしの会」、その他さまざまな方々から実践者の話を直接伺い、受講生にとっても今後の社会参加につながる具体的なイメージを描く貴重な機会となり、さっそく活動メンバーに参加することを決めたシニア大生もいたようです。



また、今回のプログラムでは各地域の社会福祉協議会のボランティアセンターを通じてボランティアグループへ参加の声掛けをしていただきました。ボランティア活動の中間支援組織として社協ボランティアセンターを知ってもらうことも目的のひとつです。シニア大生と地域がつながる第一歩として、具体的な活動を知り今後の活動の基盤となる支援組織を知ることで、より具体的な社会参加のきっかけとなる有意義な時間になりました。

.....

プラチナサロン

市民活動

松本市市民活動サポートセンター

松 本市市民活動サポートセンターは松本城のほど近くにある松本市役所大手事務所の2階にあります。まず目に留まるのが建物入口に掲げられた「プラチナ世代相談窓口 とまり木」の看板です。階段を上ると、無数の新聞記事などが貼られたにぎやかなボードが同センターのウィンドウ越しに見えます。



同センターでは毎月第2木曜日に、シニア層が集う「プラチナサロン」を開催しています。“プラチナ”世代の定義は概ね

55歳以上ですが、あくまでご自分で決めていただくとのこと。“プラチナサポーターズ”と呼

ばれる15名の方々が自主的に運営に携わり、手さぐりで始めたプラチナサロンも現在は毎回30～40名の参加者が集まるそうです。“プラチナ”世代の交流やそれぞれ得意技を持ったサポーターズによる出前講座などもあり、センターに登録いただいている“プラチナ登録者”の地域貢献やボランティア活動へのお手伝いを目指しています。

長野県長寿社会開発センターでは「いきいき中高年社会貢献活動支援助成金」を通じてシニアのグループ活動を支援しています。今回のプラチナサロンを運営する“プラチナサポーターズ”の活動にも同助成金が活用されています。

新たなシルバー人材センターを目指して

就労

公益社団法人 更埴地域シルバー人材センター

✓ シルバー人材センターといえば、施設や公園などでご活躍されるシニアの方々の姿が目につかびます。今回は更埴地域シルバー人材センターの活動の様子についてお聞きしました。

まず同シルバー人材センターではいくつか新しい試みが始まっていました。そのひとつが買い物支援です。屋外作業の依頼が多いシルバー人材センターでは女性会員が少ない傾向にありますが、女性会員を増やし、買い物支援を通じて高齢者が高齢者を支える地域の助け合いのしくみを構築し、生活必需品の取り扱いを皮切りに、大手ではなく近隣の商店などに協力を求めていきたいとのことでした。

また同センターでは起業や、社会活動を通じたグループ活動の活性化にも積極的に取り組んでらっしゃいました。今日では企業コンプライアンスや危機管理の点から制約も多いとのことでしたが、“高齢者が増えるのに会員が減るのは問題”と、これからのシルバー人材センターのあり方について熱く語る姿がとても印象に残りました。